



一般社団法人 奈良教育大学同窓会竹柏会会報

まほろば

第 3 5 号



目次

- 会長挨拶・令和4年度活動方針 2
- 学長挨拶・キャンパスだより・同窓会総会案内 3
- 令和3年度会務報告・会計決算報告 4
- 令和3年度特別会計報告・正味財産増減計算書
監査報告 5
- 奈良教育大学と奈良女子大学との法人統合について
同窓会だより 6
- 正会員総会報告・役員紹介 7
- 同窓会創設130周年記念事業
「クラブハウス建設基金」最終報告 8・9
- 全国各地に同窓の支会を
支会だより・会員だより 10・11
- 学生会員から・事務局だより・編集後記 12

「明日香 亀石」

小阪 のり子 (S51)

久しぶりに明日香へスケッチに出かけた。
葉の花も桜も終わり、私は、春を惜しむと
同時に亀石を包み込むような初夏の風にはっ
とした。活動の季節の始まりである。

田んぼの真ん中にある亀石は、圧倒的な
存在感とともに何とも言えない形の不思議さ
に、私たち人間のルーツを感じる。

いつまでも初夏の風に吹かれていたい。
それは自分探しのスケッチでもあった。



誇れる竹柏会をめざして

会長 中 川 克 巳

令和4年度を迎え、会員の皆様にはお健やかにご活躍のこととお察しいたします。コロナ禍は、人々の日常活動を一変させてしまいましたが、あるべき日常を取り戻す力強い人間の英知の積み重ねにより、徐々に明るい光が見えてきたことに少しは安堵している昨今です。3年に及ぶコロナ禍の中での130周年事業は、行動の自粛等で会議の中止も余儀なく苦難の連続でしたが、会員の温かいご協力もあって大きな成果を得て終えることができましたことはこの上ない喜びです。会員の皆様に改めて感謝し心からお礼申し上げる次第です。

さて、奈良教育大学同窓会竹柏会は、昨年度と同様の役員構成による理事会を中心にスタートしました。創設130周年記念事業を令和4年3月末で終了するに当たり、去る4月30日の正会員総会においてその全容を報告し、事業推進にご尽力いただいた「参与」並びに「実行委員」の皆様に感謝状を贈りお受け取りいただきました。篤志いただいた基金及び銘板の贈呈式には、来賓の臨席のもと加藤久雄学長をはじめ大学当局の関係者、学生代表、同窓会員等多数の出席の中で開催することができました。学長と学生代表からは心に沁みる感謝の言葉をいただきました。同窓会と大学が名実ともに結束を固め歩み続けることができたことを誇りに感じております。

大学と話し合いの結果、研究棟の2部屋を「課外活動共用室」として確保し室内に銘板を設置されることが実現しました。大学の増改築が進むに従いクラブハウスが漸次生まれ変わっていくことを楽しみ

に見守りたいと思います。

記念事業に関心を抱きつつ同窓の意識を高めていただいたことに感謝の念を強くしています。この時にあたり同窓会をより身近なものとして心の拠り所にして頂きたいと思います。

本年は次の3点について力を注ぎ、充実を図りたいと考えています。第1に、支会活動の総会を定期化し出席者どうしの親睦を深めるとともに若年同窓生の意見を聞く機会を作っていただくことをお願いします。地域の特性が存在する中で地域社会の動向や変遷などを交えた報告を寄稿いただければありがたいです。同時に、会員の増強についても言及いただければと思っています。

第2に、学生会員への支援拡充を考えています。大学との連携を密にする中で、コロナ禍を克服しながら学ぶ学生諸君への援助を行いましたし、今後も続けたいと考えています。日々の学びを大切に、真の教育者への道を追求する真摯な姿を保ち学習できる教育環境醸成への在り方等を探りたいと考えています。

第3に、本年実施を予定している「1日親睦研修会」及び、年末に予定している「教育のつどい」等安全対策を重視しながら開催できる方向で進めたいと考えています。会員諸氏の積極的な参加をいただき親睦交流を深めていただくことを願い、期待しています。

竹柏会の輝かしい未来を見据え、本年度もご理解ある協力をよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りし、挨拶いたします。

令和4年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 活動方針

目 的 奈良教育大学同窓会竹柏会は、会員相互の親睦を図り、教育並びに社会の進展に寄与することを目的とする。また、大学の方針にそって協力し、大学並びに竹柏会の更なる発展をめざす。

- 重点目標**
1. 大学当局との連携を確かにし、大学の充実と竹柏会の発展に努める。
 2. 会員相互の触れ合いを大切に、同窓会意識の高揚を図るとともに会費納入への理解を深める。
 3. 学生会員に向けての支援活動を拡充する。
 4. 年間事業の活動と支会活動との連携を密にし、竹柏会の推進と発展に努める。



「人は人に支えられて生きている」ということ

学長 宮 下 俊 也

令和4年4月1日は、奈良教育大学にとって歴史的な日となりました。奈良女子大学との法人統合です。法人統合とは、複数大学が合併するものではなく、また、どちらかがどちらかを吸収するものでもありません。奈良教育大学にとっては、教育大学としての使命、そして卒業生が奈良教育大学同窓会「竹柏会」の会員になることも変わりありません。

この法人統合は、何より学生に対する教育、学生の研究を強化することを目的としたものです。たとえば、本学の学生にとっては、これからの新入教員に求められる教養の広さと深さ、人間としての社会性、異領域分野の人々との交流による多様性、より専門的な研究力等の育成が、奈良女子大学の資源を活用することで、これまで以上に加速できるものと期待します。

全国には、たとえば三重県には三重大学が、長野県には信州大学があるように、各都道府県に国立の大きな総合大学があります。しかし奈良県にはそれがありません。けれども、奈良国立博物館、奈良文化財研究所、奈良先端科学技術大学院大学、奈良工業高等専門学校といった、個性あふれる国立の諸機関があります。これらに関西文化学術研究都市の各研究機関、自治体、民間企業を加えて強い連携協力関係を築き、二大学が核となって「奈良カレッジズ」という組織を近日中に構築します。それにより、既存の総合大学ではなく、全国初の「カレッジズ型」の学問の府として、この国の「まほろば」である古都奈良から、21世紀の新たな「学問のまほろば」となって地域を創生し、日本、世界へ向けて学術・教育・文

化の発展に貢献していきます。

さて、このような歴史的転換点に立ったこの春も、同窓会より贈られたウジョウシダレ、ベニシダレ、ヤエベニザクラなどは、みな元気に花を咲かせてくれました。そして、多大なご寄付によって新設されたクラブハウスも、6月1日に竣工式を挙行することとなりました。コロナ禍の2年間、学生の課外活動もやむなく制限してきましたが、本年度当初からは大幅に緩和し、活気溢れるキャンパスが戻ってきたところですよ。そのような中、クラブハウスの利用開始は学生にとって、また大学にとって何より嬉しいものです。あらためて深く感謝申し上げます。

ところで、私は本学と同じほどの歴史を持つ長野県飯田高等学校の同窓生です。同窓会のありがたいのは、在校時にはあまり感じることはありませんでした。しかし、この歳になると母校の近況や郷土の風景に強く関心がいくようになり、そのノスタルジーに浸らせてくれるのが同窓会の会報です。

「人は人に支えられて生きている」ということは、ごく当たり前のことであるにも関わらず、若い頃は気が付かないのかもしれませんが、しかし、とりわけ教師を目指す本学学生においては、在学中の様々な経験を通して、それがいかに尊いものであるのかを認識すべきであると考えます。サクラを見て、クラブハウスを見て、同窓会が自分たちのために尽くしてくださっていることを感じられるよう、そして、同窓会の先輩がいつも母校を応援し、支えてくれていることを、学長として在学生に伝え続けることに尽力いたします。

どうか引き続き、本学に対するご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

キャンパスだより

入学生はどの都道府県から？

(令和3年度、卒業高校所在地で調査)

1 大阪府	83名	7 岡山県	5名
2 奈良県	59名	8 広島県	5名
3 兵庫県	32名	9 香川県	5名
4 京都府	26名	10 北海道	3名
5 愛知県	6名	岐阜県	3名
静岡県	6名	鳥取県	3名
		群馬県	3名

卒業生の進路は？ (令和3年3月卒業修了者)

* 資料：2021年大学概要

教員	幼稚園	8名	公務員	16名
	小学校	56名	企業	46名
	中学校	37名	大学院進学	29名
	高等学校	16名	保育士等	5名
	大学短大高専	2名	未就職者	26名
	特別支援学校	8名		
	期限付採用	67名		
				【合計313名】

2023(令和5)年度 同窓会総会のご案内

■と き 令和5年5月21日(日) ■ところ 奈良ホテル
午前10時から TEL:0742-26-3300



出席希望者は令和5年4月末までに、事務局へ(FAXか電話で)お申し込みください。

令和3年度 会 務 報 告

令和3年
4月2日 大学入学式(コロナ禍で中止)
4月5日 会計監査を受ける
4月14日 第1回理事会
第1回まほろば編集会議
4月26日 第1回正会員総会(中止)
支会長会(中止)
5月16日 総会(コロナ禍で中止)
6月7日 第1回理事連絡協議会
第2回まほろば編集会議
6月23日 第3回まほろば編集会議
6月25日 大学との話し合い
クラブハウス工事の進捗状況等
7月8日 第2回理事会

7月26日 第4回まほろば編集会議
8月4日 第2回理事連絡協議会
第5回まほろば編集会議
8月30日 まほろば第34号発行
9月8日 第3回理事連絡協議会
9月25日 支会長会
9月29日 運営委員会
9月30日 大学中間卒業式 学部 4名
院生 2名
10月1日 大学との話し合い
工事の進捗状況
10月6日 第3回理事会
10月30日 第2回正会員総会
11月10日 第4回理事連絡協議会

12月8日 第5回理事連絡協議会

令和4年
1月19日 第4回理事会
2月16日 第6回理事連絡協議会
2月25日 同窓会創設130周年記念事業
第2回クラブハウス建設基金
贈呈
3月7日 臨時理事会
3月16日 第7回理事連絡協議会
3月24日 卒業式に向けての準備
3月25日 大学卒業式
卒業生 309名
学部 265名
大学院 44名
クラブハウス見学会

令和3年度 一般社団法人奈良教育大学 同窓会 竹柏会 一般会計 決算報告
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(歳入の部)

単位：円

款	項	本年度予算額(A)	3月31日現在(B)	比較増減額(A-B)	備 考
会 費	1 通常会費	5,230,000	5,344,493	114,493	
	入学時	2,300,000	2,282,493	△17,507	会員及び正会員 1,117名
	2 入会金	2,300,000	2,402,000	102,000	学生272名 院生58名
	入学時	0	0	0	
繰 越 金	前年度繰越金	630,000	660,000	30,000	学生272名 院生58名
利 子	利子及び雑収入	392,101	392,101	0	
合 計		100,000	11,243	△88,757	貯金利子 広告料等
合 計		5,722,101	5,747,837	25,736	

(歳出の部)

単位：円

款	項	本年度予算額(A)	3月31日現在(B)	比較増減額(A-B)	備 考
管 理 費	1 役員旅費	1,360,000	511,516	848,484	
	2 備品等	800,000	227,800	572,200	役員旅費
	3 消耗品費	100,000	43,390	56,610	事務室冷蔵庫
	4 通信費	90,000	11,148	78,852	印刷用紙等
	5 賃借料	130,000	120,454	9,546	切手・はがき・電話料金等
	6 法人化費用	100,000	51,374	48,626	コピー機リース料・コピー代
	7 事務局運営費	80,000	33,350	46,650	税理士諸費用
会 議 費	1 役員会費	60,000	24,000	36,000	事務局の管理運営
	2 総会費	150,000	25,929	124,071	
事 業 費	1 役員会費	50,000	25,929	24,071	理事会・支会長会等お茶
	2 総会費	100,000	0	100,000	
	1 広報費	4,160,000	2,934,679	1,225,321	
	2 卒業記念品	2,560,000	2,158,085	401,915	「まほろば」34号印刷、発行等
	3 事業活動費①	180,000	114,385	65,615	卒業証書用筒、紙袋
	事業活動費②	250,000	0	250,000	
	4 支会活動費	120,000	0	120,000	
雑 費	5 学生会員補助費	500,000	236,930	263,070	支会活性化対策費
	6 記念事業費	150,000	150,000	0	学生活動助成基金として積立
	7 事業基金	400,000	275,279	124,721	寄附者銘板、寄附依頼行動費、桜管理費
		0	0	0	
雑 費	雑 費	52,101	16,390	35,711	
		52,101	16,390	35,711	
合 計		5,722,101	3,488,514	2,233,587	

差引現在高 5,747,837-3,488,514=2,259,323円

2,259,323円は、次年度に繰り越します。

事業基金現在高 (令和4年3月31日現在)

南都銀行(定期)	1,226,228円	ゆうちょ(定額)	308,000円
(令和2年度の残金100万円を含む)		ゆうちょ(普通)	443,875円
南都銀行(普通)	838,368円		
合 計		2,816,471円	

学生活動助成金現残高 (令和4年3月31日現在)

南都銀行(普通) 190,228円

令和3年度 特別会計 130周年記念事業基金（クラブハウス建設基金）会計報告
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(歳入の部)			単位：円
款	項	収入額	備 考
130周年記念事業基金 (クラブハウス建設基金)	会員の部		
	1 一般会員	411,000	会員（大学生・学院生含）29件
	2 客 員	0	会員（客員） 0件
	3 その他	0	会員グループ 0件
	会員以外の部		
	1 団体・企業	380,000	企業法人 13件
	2 その他	10,000	趣旨賛同者 1件
繰 越 金	前年度繰越金	2,043,340	前年度クラブハウス建設基金
利 子	利 子	20	受取利子
合 計		2,844,360	

(歳出の部)			単位：円
款	項	収入額	備 考
130周年記念事業基金 (クラブハウス建設基金)	寄贈金	2,800,000	130周年記念事業基金（クラブハウス建設基金） として第2回目寄贈
予 備 費	予備費	40,228	学生活動助成基金に繰入
手 数 料	手数料	4,132	手数料
合 計		2,844,360	

2,844,360円－2,844,360円＝0円

正 味 財 産 増 減 計 算 書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日) 一般社団法人奈良教育大学竹柏会

				単位：円			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
〔受取金会金〕	630,000	660,000	-30,000	〔管 理 費〕	1,510,000	557,967	952,033
受 取 金 会 金	630,000	660,000	-30,000	役 員 旅 費	800,000	227,800	572,200
〔受 取 会 費〕	5,410,000	5,485,493	-75,493	備 品 費	100,000	43,390	56,610
通 常 会 費	2,300,000	2,282,493	17,507	消 耗 品 費	90,000	11,148	78,852
入 学 時 会 費	2,300,000	2,402,000	-102,000	通 信 費	130,000	120,454	9,546
客 員			0	手 数 料	0	4,132	-4,132
一 般 会 員	420,000	411,000	9,000	賃 借 料	100,000	51,374	48,626
そ の 他 会 員	10,000	10,000	0	法 人 化 費 用	80,000	33,350	46,650
団体・企業会費	380,000	380,000	0	事 務 局 運 営 費	60,000	24,000	36,000
〔雑 収 益〕	100,000	201,491	-101,491	役 員 会 費	50,000	25,929	24,071
雑 収 益	100,000	11,263	88,737	総 会 費	100,000	0	100,000
繰 越 金	0	190,228	-190,228	雑 費	0	16,390	-16,390
【経常収益計】	6,140,000	6,346,984	-206,984	【経常費用】	5,670,000	6,332,874	-662,874
〔事 業 費〕	4,160,000	5,774,907	-1,614,907	予 備 費	52,101	0	52,101
広 報 費	2,560,000	2,158,085	401,915	【当期経常増減額】	417,899	14,110	403,789
卒 業 記 念 品	180,000	114,385	65,615	【当期一般正味財産増減】	417,899	14,110	403,789
支 会 活 動 費	500,000	236,930	263,070	【前事業繰越金】	5,251,912	5,251,912	0
事 業 活 動 費 ①	250,000		250,000	【一般正味財産期末残高】	5,669,811	5,266,022	403,789
事 業 活 動 費 ②	120,000		120,000	【正味財産期末残高】	5,669,811	5,266,022	403,789
寄 付 金		2,800,000	-2,800,000				
記 念 事 業 費	400,000	275,279	124,721				
学生会員 補助費	150,000	190,228	-40,228				

令和3年度の会計については、一般会計、特別会計の通りであることを報告いたします。

令和4年3月31日

会 計 吉田貴子
会 計 小林邦子
会 計 森本玉枝
会 計 四野宮康子

会計監査報告

令和3年度の会計決算報告書を詳細に監査いたしましたところ、一般会計、特別会計共に諸帳簿等は、よく整備され、正確適性に処理されていることを認めます。

令和4年4月8日

監 事 野 阪 雅 美

奈良教育大学と奈良女子大学は、令和4年4月1日に法人統合し、「国立大学法人奈良国立大学機構」を設立しました。

2つの大学が1つになるのではなく、奈良教育大学も奈良女子大学も存続し、それぞれ異なる強みを相互に提供しあい、これまでにない新しい国立高等教育機関として、教育・研究面の機能強化を図ります。

とりわけ次の3つの取組を行います。

1 教養教育の充実・強化

両大学で開講する教養科目を両大学の学生が履修できるよう共通化します。

- 両大学の教養科目の共通化を段階的に進め学びの幅を広げます。これにより、両大学の学生の教養と創造性を高めるとともに、奈良に対する知識、異文化・多様性についての理解、持続可能な社会づくりの担い手としてのSDGsやESDに関わる知識と行動力等を培います。この取組は、複数大学設置法人傘下の大学間に認められる連携開設科目制度の下で行うものです。
- 「教養教育ウィーク奈良カレッジズ学問祭」を開催します。学問祭は、両大学の教員その他、奈良カレッジズの諸機関や、奈良にゆかりのある方々等を講師に招き、一話完結型の講義を、大学祭の模擬店や映画祭のように散りばめた一週間(8月25日～31日)です。学生は、興味のあるものを自由に複数選んで受講することにより、教養科目「諸学への誘い」の単位が取得できます。

2 教職課程の共同運用

教員志望の両大学学生に対し、両学共同で教職科目を開講することを目指します。

- 奈良教育大学の強みである教員養成教育を奈良女子大学の学生に、奈良女子大学の強みである教科内容(教科専門)を奈良教育大学の学

生に提供することが可能になります。両大学の「重なり」を解消し、効率化を図ることが期待できます。全国の教職課程でもまだ前例の少ない先駆的な取組です。両大学が持っているリソースを最大限に活用し、創造的に展開していきます。

3 奈良カレッジズ構想

法人統合によるスケールメリット及びシナジー効果を活かして、奈良県及び関西文化学術研究都市等の近隣地域に位置する研究機関、教育機関、企業、自治体等との連携・協働体制を構築します。

- 各機関との連携・協働体制の構築により、それぞれの強みや人的・物的資源の交流による教育研究インフラの強化を図ります。
- 既に両大学と奈良国立博物館及び奈良文化財研究所は、連携・協力に関する協定書を締結しています。(令和元年5月20日)



なお、1及び2については、法人統合に伴い機構に設置した「連携教育開発センター」が、3についても同じく機構に設置した「奈良カレッジズ連携推進センター」が取組を進めています。

(奈良教育大学企画・財務課)

同窓会だより

一日親睦研修会

竹柏会の更なる発展は、支会活動の充実と学生会員との連携以外ありえないといっても過言ではありません。そのためには、あらゆる機会を通して支会や学生に働きかけ、また支会や学生の意見も聴きながら、中身の充実を図る必要があります。11月の中頃に予定している令和4年度親睦研修旅行も、学生との話し合いを重ねた後、具体的な日程や内容について決めていきたいと思ひます。

なお、決まり次第ご案内致しますが、コロナウイルスの感染状況により、やむを得ず中止する場合があることをご了承ください。

徳・得講座

令和4年度の徳・得講座は、大学当局や学生との連携及び大学に常駐されている元小・中・高等学校の豊かな教育経験をお持ちの先生方とも、できれば連携していきたいと思ひます。

徳・得講座だからこそできること、していかなければならないことを掴み取り、学生により密着した内容となるような第一歩を踏み出したいと思ひます。なお、その開始時期についてはコロナウイルスの感染状況を見極めながら、7月・12月・1月の3回程度開催できればと考えています。

正会員総会報告

令和4年4月30日、奈良教育大学山田ホールを会場に正会員総会が開催されました。

冒頭「正会員総数114名のうち、39名の出席と60名の委任状がある」との報告がなされ、総会の成立が確認されました。中川克巳代表理事が開会の挨拶として、コロナ禍での同窓会活動の現状や課題について話され、今年度の各理事の紹介がありました。

続いて、議長に小谷勝彦理事が選出され、令和3年度の会務報告・決算報告・会計監査報告、令和4年度の活動方針案・予算書案が審議され、満場一致で承認されました。

その後、中川代表理事より、新築なったクラブハウスの入居研究棟について映像を交えて説明があ



り、同窓会創設130周年記念事業の終了を告げられました。それに伴い、参与会と記念事業実行委員会の解散についても話され、関係の皆様へ感謝状を贈呈されました。

最後に、吉田貴子理事が閉会の挨拶を述べ、正会員総会が終了しました。

「正会員」について

本同窓会は、2019年6月に、「会員相互の親睦を図るとともに、教育及び社会の進展に寄与する」ことを目的に、一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会として認証を受けました。2020(令和2)年4月には、「奈良教育大学同窓会竹柏会 会則」を定め、会員の種類を、正会員・一般会員・学生会員の3種とし、一般社団法人に関する法律上の社員は「正会員とする」としました。

正会員は総会での議決権を有し、年会費は3,000円(1,000円単位での増額可)となります。新しく「正会員」への登録をいただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。

令和4年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 役員紹介 (敬称略)

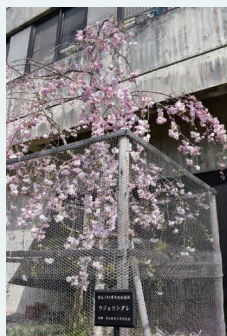
名 誉 会 長	宮 下 俊 也 長 友 恒 人 柳 澤 保 徳 長 田 光 男 西 田 史 朗	竹 柏 会 委 員		向 出 佳 司 山 田 昇 滝 川 満 夫 銭 本 三 千 宏 中 澤 新 治		支 会 長	内 吉 野 吉 吉 野 高 大 学 大阪市興東会 東 大 阪 市 八 尾 市 京 都 名 張		久 保 隆 小 原 康 子 井 上 惠 充 中 谷 和 博 金 治 延 幸 浦 上 弘 明 久 保 三 左 男 瀧 矢 俊 成 西 田 美 智 子 阪 東 俊 行 後 藤 誠 司 福 西 正 剛 谷 嶋 美 智 子 喜 多 健 一 山 田 惠 敏 熨 斗 慎 司 今 本 泰 啓 上 西 均 出 原 威 佐 夫 稲 浦 聡 岡 田 泰 治 脇 田 正 美 北 川 雅 尚 前 川 美 幸 宙 亨 清 之 清		評 議 員	宇 陀 市	田 中 三 彦 原 田 須 加 子 中 島 浩 一 西 井 良 之 福 仲 司 森 岡 義 博
顧 問	中 川 克 巳 吉 田 貴 子 橋 本 清 松 原 さ お り 久 保 三 左 男 中 村 利 典 小 谷 勝 彦 井 村 崇 暢 楠 隆 彦 香 川 一 実 小 林 邦 子 森 本 玉 枝 増 田 辰 夫 吉 田 義 誠 近 藤 義 子 四 野 宮 康 子 中 村 倫 子 野 阪 雅 美 井 上 三 夫 松 村 惠 司 北 村 良 夫 岩 橋 恭 子 武 村 惠 美 金 治 延 幸			奈 良 市 天 理 市 大 和 郡 山 市 山 辺 上 浦 一 道 生 駒 市 松 村 惠 司 生 駒 郡 宮 前 清 和 桜 井 市 向 出 惠 宥 磯 城 郡 堀 内 義 雄 宇 陀 市 田 中 三 彦 檀 原 市 山 本 秀 樹 高 市 郡 上 西 義 次 大 和 高 田 市 北 葛 城 郡 増 田 辰 夫 香 芝 市 葛 城 市 御 所 市 五 條 市			奈 良 市 伊 藤 雅 之 村 井 稔 正 三 村 精 一 上 浦 一 道 松 村 惠 司 宮 前 清 和 向 出 惠 宥 堀 内 義 雄 田 中 三 彦 山 本 秀 樹 上 西 義 次 増 田 辰 夫	奈 良 東 部 天 理 大 和 郡 山 市 山 辺 生 駒 市 生 駒 郡 桜 井 磯 城 郡 宇 陀 市	吉 野 内 吉 野 吉 野 高 校 大 学 大 阪 市 東 大 阪 八 尾 京 都 三 重	宅 康 次 野 阪 雅 美 尾 崎 和 弘 杉 田 好 雄 久 保 隆 小 原 康 子 森 嘉 敏 彦 井 上 惠 充 石 澤 竜 義 木 村 鑑 廣 池 田 眞 一 松 川 登 志 子 植 田 勝 加 藤 賢 一 井 戸 野 仁 司 濱 喜 代 巳 廣 瀬 裕 司 布 村 進			
代 表 理 事	支 会 長			評 議 員			宇 陀 市	三 重					
理 事	支 会 長			評 議 員			宇 陀 市	三 重					
	支 会 長			評 議 員			宇 陀 市	三 重					
	支 会 長		評 議 員		宇 陀 市	三 重							
	支 会 長		評 議 員		宇 陀 市	三 重							
	支 会 長		評 議 員		宇 陀 市	三 重							
監 事	支 会 長		評 議 員		宇 陀 市	三 重							
名 誉 理 事	支 会 長		評 議 員		宇 陀 市	三 重							
竹 柏 会 委 員	支 会 長		評 議 員		宇 陀 市	三 重							

同窓会創設130周年記念事業 「クラブハウス建設基金」最終報告

① 130周年記念植樹の桜

2019(平成31)年、同窓会創設130周年記念として大学構内にそれぞれ品種の異なる9本の桜と橘を植樹した。講堂前や学生会館前の桜は翌年から花を咲かせていたが、事務棟前の枝垂れ桜は根付きが思わしくなかった。

しかし、業者による手入れや、大学当局の日常的なケアにより今年も見事な花を咲かせた。



ウジヨウシダレ

② クラブハウス建設基金

2020(令和2)年1月15日「クラブハウス建設基金趣意書」を全会員に送付した。送付の数日後には振り込んでいただき、反響の大きさを感じた。「亡くなった家族がお世話になった大学のために」「後輩の活動を支援したい」と、各地から基金への声が寄せられた。

ご協力いただいた方のご芳名は、会報「まほろば」33～35号に記載しその都度会計報告を行ってきた。

2022(令和4)年3月末現在の総数
会員1059名、趣旨賛同者・企業等20件
収入合計 12,840,228円(手数料を除く)

建設基金は、2回に分けて大学当局に贈呈した。

第1回は基金が1,000万円に達した2020(令和2)年12月20日、ホテル日航奈良に於いて「クラブハウス建設基金贈呈式」を催し、奈良教育大学の加藤久雄学長に手渡した。

第2回は2022(令和4)年2月25日、学長室に於いて280万円を同窓会役員から加藤学長に贈呈した。



第2回クラブハウス建設基金贈呈

③ クラブハウスの建設

中間報告の通り、同窓会単独でクラブハウスを建設することは叶わなかった。「研究棟の老朽化に伴う建て替え工事」の一環として、同窓会の基金も活用した新たな研究棟を建設し、その一部に「課外活動共用室(仮称)」を設けるという計画のもと、工程が組まれた。

2021(令和3)年7月、古い部室の一部が取り壊され、工事現場の埋蔵文化財の調査が行われた。大学構内が新薬師寺の旧境内にあたり遺構発見も考えられたためである。調査終了後9月より、予定通り基礎工事が始まった。

当面は、2部屋の課外活動共用室であるが、今後10年程度かけて改装し、最終的に40室程度のクラブハウス棟として整備する。そのため、各部屋には予め2つの扉が作られ、今後パーティション等で対応できるように施工されている。

2022(令和4)年3月、写真ではプールの奥に見える研究棟が完成した。課外活動共用室として学生が使用する部屋は、1階の右手前の2室である。



課外活動共用室

室内は、学生が快適な環境で活動できるように、空調設備が完備している。

今後、学生や大学当局との話し合いを



掘り出された土の山

持ち、活動に相応しい室内の設備を整えていくことにしている。

④ 銘板について

2022(令和4)年4月に行われた正会員総会の終了後、内覧会を実施した。ずらりと並んだ基金への協力者のご芳名の数に、感謝の思いを新たにした。



会員の中には、取り付けられた銘板に刻まれた関係者の名前を探し出し、スマホで写真を撮る姿も見受けられた。今回取り付けしたのは、第1次分の銘板2枚であるが、最終的には1万円以上の基金を寄せていただいた方のご芳名を全て掲載し、都合3枚となる。

⑤ 130周年記念事業の終了

クラブハウス建設基金の募集を終え、研究棟が完成したことを受け、2022(令和4)年3月末をもって130周年記念事業を終了した。

振り返れば、2019(令和元)年8月31日に「130周年記念事業実行委員会準備会」を開催して以来、2年半に及ぶ取り組みであった。その間「参与」「記念事業実行委員」の皆様には、何かとご協力をいただいた。

新型コロナウイルス感染症の蔓延の時期と記念事業が重なったことで、当初の計画通りに進まなかった面もあったが、同窓生をはじめ多くの皆様方にご支援を頂いたことに改めて感謝申しあげたい。

金額に関わらずクラブハウス建設基金にご協力いただいた全員の皆様の名簿は、大学当局と同窓会で大切に保存していくことになっている。

今般の事業終了に伴い「参与会」「記念事業実行委員会」を解散し、2022(令和4)年4月に開催された正会員総会に於いて関係の皆様へ感謝

状を贈呈した。



⑥ 竣工式

2022(令和4)年6月1日「クラブハウス竣工式」が、大学関係者・学生代表・同窓会理事の参加のもと行われた。宮下俊哉新学長は、同窓会への謝辞とともに、「学生は、クラブハウス竣工を機に同窓会に思いを寄せ、仲間との結びつきを強くして欲しい」と話された。学生代表からは、謝意とともに「クラブやサークル活動は学生生活の根幹であり、有意義に活用していきたい」との話があった。吉田貴子理事の挨拶の後、銘板が除幕された。



「課外活動共用室」として今回2部屋が設置されたが、全面的な「クラブハウス」の運用は、10年後の構内の工事完了を待たなければならない。

しかし、それまでの間も、同窓会と学生会員との話し合いを継続して行い、学生のニーズを少しでも汲み上げていくようにしたいと考えている。

130周年の記念事業として植樹した桜の幼木も、10年後には立派に成長し、「クラブハウス」の全面運用に花を添えてくれることと期待している。

クラブハウス建設基金ご協力いただいた方のご芳名

(令和3年7月27日～令和4年3月31日まで)
順不同・敬称略

法人	同窓会員	平尾 克樹 (S44)	秀平まさ子 (S47)	青山 久子 (S54)
西岡税理士事務所	松原 茂 (S22)	武村 純一 (S46)	上田 全克 (S50)	山本 敬子 (H1)
	谷河 忠治 (S28)	武村 恵美 (S47)	上田 節子 (S50)	下田 良子 (H9)
賛同者	松本 武彦 (S39)	多田 廣一 (S47)	村田 美保 (S52)	安里 健志 (H23)
峯崎れい子	平尾 稔子 (S42)	西口 清 (S47)	賀須井英嗣 (S54)	浅井 尚樹 (H24)

クラブハウス基金の寄贈は令和4年3月31日を以て終了いたしました。今までの皆様方のご厚情に深くお礼を申し上げます。

全国各地に 同窓の支会を!!

全国各地の会員の皆様奈良教育大学同窓会は令和2年に創設130周年を迎えました。130周年を記念して、奈良の八重桜の植樹とクラブハウス建設基金の呼びかけを行いました。多くの会員の皆さまや趣旨にご賛同いただいた企業のご支援により、1280万円の基金が集まり、過日大学に寄付致しました。将来クラブハウスに活用される予定の建物は令和4年3月に完成し、その中の2部屋はクラブ活動の場所として利用されます。

さて同窓会の会員は関西を中心にし、全国におられ、国内全ての都道府県に確認されています。

同窓会活動を活性化させるために、支会活動を支援することが本年度の活動の重点です。事務局で把握している支会活動は奈良県全域、大阪府、京都府、三重県の一部です。今後の本会の発展を支えていく各地域の同級生の集いを是非皆様のご協力により展開して行きたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

◎各都道府県で**同窓の集いを実施されている場合**は事務局までご連絡ください。また、活動の様子等を400字程度にまとめた原稿と写真を添えて送っていただければ、会報「まほろば」に掲載させていただきます。

◎これから**同窓の集いを計画したいと思われる場合**も事務局までご相談ください。ご支援をさせていただきたく思っております。

同窓生の都道府県別人数(2022年5月現在)

北海道	19	石川	59	岡山	255
青森	2	福井	97	広島	153
岩手	3	山梨	19	山口	42
宮城	8	長野	45	徳島	74
秋田	6	岐阜	84	香川	111
山形	13	静岡	95	愛媛	94
福島	9	愛知	168	高知	17
茨城	23	三重	375	福岡	29
栃木	11	滋賀	104	佐賀	7
群馬	7	京都	915	長崎	26
埼玉	24	大阪	2,483	熊本	28
千葉	47	兵庫	1,080	大分	24
東京	89	奈良	6,058	宮崎	42
神奈川	81	和歌山	160	鹿児島	16
新潟	12	鳥取	87	沖縄	19
富山	52	島根	83		

連絡先：奈良教育大学同窓会 事務局
〒630-8301 奈良市高畑町 奈良教育大学内
☎0742-21-6101 FAX0742-21-6102

支会だより

京都支会「あおによし会」40周年 京都府にあと2つ支会を！北部と京都市内に！

あおによし会 会長 久保三左男(S41)

京都支会「あおによし会」は南丹市以南の京都南部に昭和56年5月11日に発足し、今年令和4年に40周年を迎えました。ここまで会を継続してこられたのは多くの先輩方のご尽力のお陰とありがたく感謝しています。この間、先輩方の活躍が後輩の励みとなりました。また、同じ職場で直々にご指導いただいたりして同窓の絆を強めてきました。

今年は京都府にあと2つ支会を発足させたく準備を進めてもらっています。京都市内の支会発足に向けてご協力頂ける方を求めています。同窓会事務局(☎0742-21-6101)までご連絡ください。

今後は支会を活性化させ同窓生に役立つ組織にするため、役員の若返りを図っていきます。同窓生のご支援ご協力をお願いします。



第32回「あおによし会」
総会・懇談会
平成25年6月

会員だより

子どもの居場所づくりの必要性

浦上 弘明(S51)

私は昭和51年3月、奈良教育大学を卒業し大阪府八尾市で中学校教員としてスタートしました。恩師をはじめ今まで多くの方々からのご教示のお陰で46年間教育の道に携わることができました。現在八尾市の教育長を務めています。

さて2年前新型コロナウイルス感染拡大の影響

により、社会環境や家庭生活が一変し、教育活動にも影響を与えています。学校休業を余儀なくされ、学校行事等に制限がかかるとともに人格形成上最も大切な集団での学びができなくなり、子どもの成長に暗い影を落としています。

また近年いじめ問題をはじめ、様々な理由により学校に登校できない不登校や引きこもりの問題、虐待やヤングケアラー、さらにはネット上でのトラブルによる人権侵害事象の増加など多くの教育課題が生起しています。子どもたちが安心して過せる環境の確保とその改善が今まさに社会全体に求められています。

中でも深刻な課題が不登校問題です。全国で20万人あまりの児童・生徒が学校に登校できず、日々暗い生活を送っています。スマートフォンが友だち、一日中ゲームに没頭し、ユーチューブを見て過ごしたりしています。中には昼夜逆転の生活を送っている子どもたちも沢山います。

このような生活を送っている子どもたちの心に輝きを取り戻してあげたいという想いで、3年前から特定非営利活動法人「輝」を設立しました。リアルな場面でのコミュニケーションを大切にしながら、学習の遅れを取り戻したり、興味関心のあるプログラム(ゲーム・創作活動・プログラミング等)を用意し、楽しく過せる居場所を確保しています。

そうした日々の活動を通して、表情が明るくな

り、笑顔が見られるようになって、学校に復帰できた子どもたちも沢山でています。

義務教育制度の中で、不登校は恥ずかしいことであるという社会や家庭の価値観が、今まさに変わろうとする時代に入っていることを活動の中で実感しています。2017年に制定された「教育機会確保法」がまさにそれを後押ししています。子どもたちが社会的自立を育むことこそ価値のあることではないでしょうか。

最後になりますが、様々な理由により心に傷を背負い、将来の夢を描けない子どもたちが、自らの可能性を引き出すための居場所が今求められています。教育委員会、学校、民間施設が連携した居場所づくりに着手することを願うばかりです。

堀井甚一郎ほか著『社会への旅』に関する論文の紹介

名誉教授 岩本 廣美



「1947年発行社会科読本『社会への旅』の内容と成立背景－堀井甚一郎の地理学研究との関連に注目して－」という論文が、2021年9月発行の学会誌『新地理』69巻2号に掲載されました。この論文は、第二次世界大戦後間もない時期の奈良師範学校男子部附属国民学校で主事を務めていた堀井先生が、当時の附属国民学校教諭等6名と共同で執筆し、出版した『社会への旅』という読本の内容を詳細に紹介し、背景等を考察したものです。堀井先生は、1929年に奈良県師範学校の地理学担当教諭として採用され、戦後の1967年3月に本学教授を定年退職しています。『社会への旅』の共同執筆者の南田多三郎、坂井義雄、堀内俊夫、村井光蔵、松本義光、

桜井幸男は、いずれも師範学校出身、堀井先生の教え子に当たる方々です。

3分冊計約200ページの『社会への旅』(写真参照)を読みますと、当時の奈良県内の社会的状況を垣間見ることができ、たいへん興味深いものがあります。同窓会の会員の方で、もし、この論文の内容に関心を持たれた方は、末尾のアドレスまで電子メール(又は郵便)でご連絡いただければ、10名以内ですが論文の抜き刷りを贈呈させていただきます。『社会への旅』自体をご覧になりたい方は岩本にご相談ください。ちなみに、会員の方で『社会への旅』を教材として指導に使った、あるいは、児童の立場で読んだ、といったご経験をお持ちの方は、ご記憶されていることなどお知らせいただければまことに有難く存じます。

論文執筆者の岩本は、社会科教育担当教員として1991年に着任し、2020年3月に定年退職しました。現在千葉県在住です。『社会への旅』の存在は、随分前に故山本喜志雄先生にご教示いただきました。2013年頃から『社会への旅』に関連する研究を始め、最近になってやっとまとめることができました。

岩本廣美: iwamoto@cc.nara-edu.ac.jp

〒290-0244 千葉県市原市南岩崎477-1

歌声とともに

金治 夏希(音楽教育科 H27)

私は、新任の頃から生駒市立桜ヶ丘小学校で音楽専科を受け持たせていただいております、7年目の教員生活を送っています。

桜ヶ丘小学校は音楽を非常に大切にしてきた学校です。コロナ禍以前の入学式では金管バンドクラブによる生演奏が入退場時に流れ、全校児童のお祝いのよびかけと歌であたたかく新入生を迎えます。卒業式でも全校児童の歌声が体育館いっぱいに響きます。

私が子どもたちの歌声を初めて聴いたのは着任式の時でした。校歌を歌う力強くのびやかな歌声に涙

が出そうなほど感動しました。それと同時に「自分に出来るだろうか。この歌声を絶やしてはならない」と、この学校で音楽科を受け持つことの責任を重く受け止めました。

音楽の授業をする時にプラスになったのは、大学時代の経験でした。講義とクラブ活動(軽音楽部)、素敵な音楽にたくさん触れたこと、人の話に耳を傾けて共感したこと……。歌詞の中身を深く掘り下げ、それを歌に乗せる時にこれらの経験が活かしました。

初回の異動が迫る今、理想の音楽専科になれたとは思いますが、感情が乗った子どもたちの明るく素直な歌声を聴くことができ、幸せな毎日を送っています。

学生会員からのたより

保健体育専修4回生 水泳部
中谷 正哉

保健体育専修2回生 柔道部
見友 詞勝

「With コロナ」の世の中が始まり3年目を迎えています。課外活動では、コロナウイルスが流行した当初は全く活動を行うことができず、活動が再開しても試合が開催されない状況でした。

しかし、約1年前頃から徐々に課外活動の規制が緩和され、試合も開催されるようになりました。現在はコロナウイルスが流行する前と同様、シーズン中は大学の50mプールで週5日泳いでいます。またオフシーズンは大学の近くにあるスイミングスクールで週2日練習を行っています。コロナ禍になるまでは多くの新入部員がいたのですが、コロナ禍になってからは新入部員の数が減少傾向になっています。水泳部では、泳げるようになることはもちろん水泳指導ができるため、今後多くの学生が入部してくれることを期待しています。

大学生活において3回生までは授業が毎日のようにありましたが、4回生では授業が少なくなったため、日々教員採用試験の勉強や卒業論文制作に向けての活動に励んでいます。大学生活も残りわずかとなりますが、夢や目標に向けて残りの勉強も課外活動も全力で取り組んで参ります。

この度は、「クラブハウス建設」のために心あたたまるご寄付を賜り、ありがとうございました。今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

奈良教育大学に入学してから早くも1年がたち、私は今年2回生となりました。今回はこの場をお借りして、学生生活と部活動についてお話をさせていただきます。

まずは学生生活についてです。昨年度は実技以外の授業はほとんどが非対面となり、なかなか友達と会うことができず、物足りない日々を過ごすことになりました。今年度からはようやく原則対面授業となり、とてもうれしく思っています。

次は部活動です。柔道部は今年新規部員を1名獲得し、昨年度よりも積極的に活動することができています。5月8日に行われた奈良市民大会では、女子一般の部と男子2段の部で2人が優勝しました。現在は「近畿国立大会」や「関西柔道大会」に出場するために準備を進めています。コロナ禍で何処までできるか分かりませんが、できる限り大きく活動したいと思っています。

最後に「クラブハウス」の建設にご協力くださった同窓会の皆様、本当にありがとうございました。皆様のご協力により、大学のプールの横に新しく研究棟が建てられ、その棟にある2部屋を「課外活動共有室」として今春から使う事ができるようになりました。今後とも奈良教育大学をよろしくお願いいたします。

事務局だより

◎令和4年4月1日からは母校は国立大学法人奈良教育大学から



国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学へ校名が変更になりました。

ますますのご発展をお祈りしています。

◎まほろば35号は、全会員に発送しています。住所変更等ありましたら事務局までご連絡ください。

◎同窓会は皆様の会費で活動しています。会費の納入にご協力ください。

◎個人情報の保護には、万全を期しています。

編集後記

同窓会創設130周年記念事業の一つとして植樹した各種枝垂桜は、少しずつ時季をずらして長い間晴れやかな春をキャンパスいっぱいに撒いていってくれました。

クラブハウスの竣工式も挙行されました。会報「まほろば」には盛り沢山の原稿が寄せられました。少々文字が小さくなって虫めがねの出番になりそうですが、心弾む新年度の始まりです。

会員の皆様のご厚情に心から感謝しつつ、「まほろば」35号をお届けいたします。

原稿募集

- 会報36号の原稿を募集します。
- 500字程度で、写真等もお願いします。
- 送付先：同窓会事務局広報委員会 宛



一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会会報「まほろば」 第35号 発行：令和4年6月30日

発行所 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会事務局 〒630-8301 奈良市高畑町 奈良教育大学内
☎0742-21-6101 Fax0742-21-6102 郵便振替番号00930-1-238232

編集・発行 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会

印刷所 関西印刷株式会社 奈良市南半田中町19・20番地

—題字 故 川淵勝男元会長—